

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0177100328		
法人名	株式会社山一山岸商店		
事業所名	グループホームかわせみ		
所在地	〒079-0313 北海道空知郡奈井江町字奈井江町161番地 (電話) 0125-65-5811		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】 (平成20年12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 3月25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1~2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000~20,000 円
敷 金	有 (円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (19,550円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奈井江町立国民健康保険病院、山中歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、法人代表者の家族が介護を身近で経験したことから、地域の認知症ケアの一助になりたいと考え、設立された。職員は「認知症の本人と家族の立場に立った支援をしたい」と考え、理念に掲げている「安全」「安心」「楽しく」をバランスよく考慮し、利用者の生活、自己決定を深く意識している。日課はなく、利用者のペースを大切にして、自由な発想で利用者の生活を支えている。町立病院から近く、閑静な住宅街に立地し、畑を作る土地が確保されるなど、環境面で恵まれている。外部研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>前回の改善課題については、家族会の開催により意見を反映し、医療依存度が高まった時の情報共有や、災害対策として町との連携強化、保健センターの栄養士の協力など、改善へ向けた取り組みをしてきた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価は職員全員で実施し、管理者等が評価表を取りまとめた。評価の実施は、事業所のあり方、認知症ケアのあり方について、改めて考える機会となったので、今後は外部評価の結果を活用し、サービスの向上に努めていく予定である。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>概ね2ヶ月ごとに会議を開催している。地域行事への参加、外部評価結果について報告し、今後の行事や広報活動、無断外出時の対策、災害時の備蓄、家族会の開催について検討している。会議には、地域住民、町職員のほか、利用者や家族の代表者も参加している。毎月、地域包括支援センターが主催している地域ケア会議に出席し、情報交換や地域の問題について話し合い、地域で高齢者を支えられるよう検討している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>身体状況や精神状況、毎日の暮らしの変化、預かり金の出納状況については、毎月家族に報告している。事業所での生活の様子は、季刊にて広報誌を発行し伝えている。苦情が生じた時は、職員会議にて検討し、改善方法を事業所内に掲示し、ケアの内容に反映させている。家族会を開催し、年間行事計画、行事の内容について意見交換を行っている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内の一員として、敬老会や文化祭など地域行事への参加、地域との関わりを深めている。地域活動として、散歩の途中にゴミ拾いなどの活動を行っている。今後、保育園の運動会に見学に行くなど、自然な形での交流を検討している。地域の中で根ざした事業所を目指している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中で、その人らしく地域の中で暮らしていく趣旨を掲げている。地元出身の利用者が多く、地域の行事に参加するなど、地域での暮らしの継続性を意識している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を復唱し、確認している。毎月の職員会議で理念について話題とし、職員の考えが一致するようにしている。「安全」「安心」「楽しく」をバランスよく考えて対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の一員として、敬老会や文化祭など地域行事への参加、地域との関わりを深めている。地域活動として、散歩の途中にゴミ拾いなどの活動を行っている。	○	今後、保育園の運動会に見学に行くなど、自然な形での交流を検討している。今以上に、地域の中で根ざした事業所になることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題については、家族会の開催や町との連携強化などを通して改善してきた。自己評価は職員全員で実施し、管理者等が評価表を取りまとめた。評価の実施は、事業所のあり方、認知症ケアのあり方について改めて考える機会となったので、今後は外部評価の結果を活用し、サービスの向上に努めていく予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月ごとに会議を開催している。地域行事への参加、外部評価結果について報告し、今後の行事や広報活動、無断外出時の対策、災害時の備蓄、家族会の開催について検討している。会議には、地域住民、町職員の他、利用者や家族の代表者も参加している。	○	事業所では、開催日程の調整が難しく、スムーズに集まれるよう検討していることから、今後の取り組みに期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、地域包括支援センターが主催している地域ケア会議に出席し、情報交換や地域の問題について話し合い、地域で高齢者を支えられるよう検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	身体状況や精神状況、毎日の暮らしの変化、預かり金の出納状況については、毎月家族に報告している。事業所での生活の様子は、季刊にて広報誌を発行し伝えている。	○	日々の変化について、詳細に情報を伝えている。しかし、家族により様々な要望や意見を持つことも考えられるので、伝達する情報の量について、さらに検討することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が生じた時は、職員会議にて検討し、改善方法を事業所内に掲示し、ケアの内容に反映させている。家族会を開催し、年間行事計画、行事の内容について意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少数にとどめている。やむを得ず異動が必要な場合は、引継を十分に行い、利用者への負担が最小限になるよう配慮している。利用者にはその都度説明しているが、家族には説明はしていない。	○	職員が異動となった時の家族への周知方法については、広報誌や掲示板を活用するなど、家族との信頼関係をより深めていくために、一層の工夫を期待したい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に外部研修へ参加し、地域で行われる研修にも積極的に参加している。研修の内容については、職員会議の中で伝達し、職員全員に回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや医療機関と、合同研修会を開催している。地域のグループホームの連絡会に加入し、困難事例の対応などを検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学や訪問をしてもらい、入所後も、できる限り家族に面会に来てもらっている。家族にも一緒に食事をしてもらい、ゆっくり時間をかけて、馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作り、漬物作り、調理の準備、味付けなど、利用者と協働して行っている。一緒に散歩をして、地域での仕事や暮らしぶりのことを話題にして教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの関わりの中から、利用者の意向や希望を確認している。利用者から意向の確認ができない場合は、家族から生活歴を確認し、事業所での生活や介護計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で話し合い、サービス担当者会議を経て計画書の原案を作成している。介護支援専門員が、利用者や家族と相談し、施設内のサービスだけでなく、地域との関わりも含めた計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、状態の変化を確認し、計画の評価をしている。定期的見直しは3ヶ月ごととしているが、状態の変化や利用者や家族の要望に応じて、その都度、計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設内に家族が宿泊できる部屋を確保し、外泊が困難な利用者も、家族と一緒に過ごすことができるようにしている。通院や外出の支援は、必要に応じて実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、かかりつけ医の医療を継続できるよう支援している。かかりつけ医との連携を密にして、適切な医療が確保できるよう配慮している。通院は、原則家族対応としているが、家族が対応できない時は、職員が付き添うこととしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算は算定していない。病状が重症化した時は、かかりつけ医や家族と、今後の方針、ケアの方向性について十分検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重すること、尊厳を保持することの重要性を認識し、羞恥心を伴うケアの場面では、さりげなく支援できるように配慮している。外に行こうとする利用者に対して、声かけや行動を共にして、利用者の安全に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はなく、利用者は自由に生活している。日々の暮らし方を、利用者自らが選択できるよう、散歩や外出、スーパーや衣料品店への買い物など、利用者一人ひとりの希望に沿った関わりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、味見、後片付けなど、利用者の意欲や希望に合わせて、できることをしてもらっている。野菜作りや、旬の食材を使用して、季節感を意識している。	○	食事は生活の中で大きなウェイトを占めるので、利用者の積極的な関与が期待される。能力や意欲、対人関係など、困難さを伴う問題もあるが、場面設定や雰囲気作りに配慮し、共同生活という視点から利用者の力を活用することを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前から夕方にかけて、毎日いつでも入浴することが可能で、毎日入浴している利用者もいる。入浴を拒否する利用者に対しても、声かけのタイミングを考え、入浴がスムーズにできるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、現在の能力を把握して、買い物、掃除、散歩、洗濯物たたみなどの作業活動を提供し、楽しみや役割作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、地域の行事への参加、知人への訪問など、利用者の希望に沿って外出の機会を作っている。希望により、散歩に付き添ったり、外食行事を企画するなど、定期的な外出の機会を確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に暮らせるよう、見守りの体制を確保し、日中は鍵をかけないケアを実施している。事故を防ぐため、玄関にセンサーを設置し、玄関の開閉を把握できるようにしている。防犯上、夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災時の避難訓練を実施している。災害時は近くの福祉施設が避難場所となっている。町と相談して、災害時の食料備蓄を分担し用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を確認し、職員は情報を共有している。摂取量が少ない人には、好みの飲み物や間食で栄養を補っている。定期的に、保健センターの栄養士に専門的なアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、外出や行事のときの写真を飾っている。桃の節句の切り絵や塗り絵など、季節の飾り付けを行い、自分が住んでいる家と感じてもらえるように、家庭的な雰囲気作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、写真、仏壇、馴染みの家具や思い出の品々を持ち込むことができる。家族には、今まで暮らしてきた部屋を再現できるようにと説明している。居心地の良さと暮らしの継続性に配慮している。		

※  は、重点項目。